

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678900194
法人名	有限会社 ソフィア・インター・ナショナル
事業所名	グループホーム 美笠
所在地	鹿児島県奄美市笠利町中金久113番地1 (電話) 0997-63-2200
自己評価作成日	平成26年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者お一人おひとりの思いを大切にし、全ての事について皆で考え、より家庭的な環境で生活できるようにしております。

地域行事(お祭り・運動会・敬老会等)へ参加し、地域の方々との交流を積極的に行うことで、ご利用者の心のケアに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所隣接の関連法人笠利病院より、理学療法士を講師に介護職員向けのリハビリの指導を受け、利用者のADL維持を目的に機能訓練の支援を行っている。
- ・利用者の疾病予防を目的に歯科医師や皮膚科の往診を受けたり、事業所で発生した疾病を基に疾患についての勉強会を行う等、利用者の健康管理を常に意識した行動を行っている。
- ・事業所はヒヤリハット専用のノートを作成、全てを記入、事故報告書を基に毎月のミーティングで話し合いを行い事故防止に努めるよう行動している。
- ・集落内外の各行事に事業所も利用者と一緒に参加や見学等を行い、地域住民と触れ合う機会を積極的に支援しており、殆どの集落住民が利用者に協力的で配慮のある接し方で受け入れを行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域の方々の協力を得ながら「その人らしい生活」が営めるような理念を作っている。	事業所独自の理念を職員全員で共有し、地域に密着した家庭的な場として支援している。本人の思いに沿って個々に合わせたケア支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（近隣の学校行事やお祭り等）への参加や中学生の職場体験学習の受け入れを行っている。	ホームの敬老会の時に小学生や高校生がフラダンスを披露したり、地域の相撲大会やロードレース大会を見物に行った時など地域の人達との交流の場もなっている。近所の方からの野菜や花の差入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症キャラバンメイトの一員として、包括支援センター等が開催する「はつらつ教室」等へ参加し、認知症の理解や支援方法について協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容や意見・要望等を職員ミーティングにて報告・検討を行っている。	会議は定期的に行っている。外部評価を受ける事や結果等も会議で報告している。会の中で家族会の代表から職員の利用者への声のかけ方、接し方等褒めてもらっている。反面、言葉使いについての指摘もあり職員に伝え改善を図る等、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>保健者の高齢福祉課や地域包括支援センターの職員や近隣の市町村の担当職員と連携を図っている。</p>	<p>町の支所に足を運んで利用者や事業所の実情を報告し、27年度法改正の事を相談に乗ってもらおう等、町担当者とは連携や協力関係を築いている。また、隣の町役場の地域包括支援センターからも情報を得たり、研修会の連絡等を聞き参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中は、出入り口には鍵を掛けず、出入りが自由になっている。身体拘束は行っていない。また、周辺症状について、問題ととらえるのではなく、「ご本人が行える行為」と捉えるようにしている。</p>	<p>敷地内の笠利病院での研修に3人の職員が参加したり、外部研修も受けている。日中の玄関の施錠は行っていない。身体拘束・虐待は一切行っていないことを宣言している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員ミーティングや勉強会等で理解に向け取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員ミーティングや勉強会等で理解に向け取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>施設の理念・取り組み・利用料金・金銭管理等について説明・同意を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>各居室の担当を通し、相談・苦情・不満等を伺い、職員ミーティングにて検討を行っている。</p>	<p>寒さに弱い利用者の家族からは日の当たる部屋を居室にして欲しいとの要望や事業所での看取りの相談などがあり、できるだけ要望に応じるよう対処している。利用者の排尿時間のパターンを調べ、トイレ誘導を行い自立支援や費用の負担を軽減できるよう支援している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員ミーティング等で職員の意見が出しやすい環境に努めると同時に個々に面接を行っている。</p>	<p>管理者が問題提起し、シフトの組み方を職員で話し合っ労働時間の価値的な組み方を検討したり、ヒヤリハットをノートに記録し、どうしてそうなったのかと問いかけの言葉も記載する様にしている。申し送りノートに上手くいったケアの方法や失敗した事なども記録している。管理者と職員で何事も考え対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>各職員が居室の担当等役割を持って、意欲的に業務が行えるよう配慮している。また、同グループ内の隣接病院の勉強会等への参加を促している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>同グループ内の隣接病院の勉強会等への参加を促している。また、保険者が開催する研修等へも積極的に参加させ、配布資料等を回覧し職員間で周知できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連の事業所等への研修等へ参加・受け入れを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に、ご本人への面談を行い、ご本人の趣味趣向や職歴等を伺っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の困っている事や不安に思っている事などを事前に伺い、重要事項等の説明を行いながら信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じ、居宅介護支援事業所や包括支援センターを紹介し対応すると同時に、連携を図っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活動作の一つひとつがリハビリであり、ただ介護を行うのではなく、できる部分を多く摂らえ、自ら行って頂くように意識を持って行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>№18の介護内容について、面会時等に説明を行い、毎月の御様子を写真などで、ご家族へ送付している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの美容院へ出掛けたり、地域の行事等に参加することで、馴染みの関係性を継続している。</p>	<p>利用者の馴染みの美容師に来てもらったり、家族からの要望の馴染みの美容室へ出かけたりしている。友人に会いに行ったり、出身集落や馴染みの地域の行事に参加している。家族が隣接の病院に受診に来た時に事業所に立ち寄りしたりしている。島外に住んでいる家族に電話して会話する等の支援も行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>関係性の情報を職員間で共有し周知できるようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他事業所へ移られたり、入院されたご利用者やそのご家族へも訪問し、相談等を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の言動から、「思い」を感じ対応できるよう職員ミーティング等で検討している。	利用者個々の記録と個人記録の申し送り等から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族に聞いたり、動作や仕草から本人中心に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて得た情報と入所後の関係性が構築してからの情報と常に情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活動作や趣味趣向を把握し生活に取り入れている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との面談や職員ミーティングにて定期的にモニタリングを行い計画を作成している。	モニタリングは3ヶ月に1回行っている。状況に応じて毎月行う時もある。利用者の家族から現状維持を要望されている事等や、家族や本人の希望なども計画に取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録へ日々の様子を記録すると同時に、短期目標を表紙にすることで、職員個々が目標を把握しやすくし、留意事項については、担当者に記入させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況やご家族の要望等に応じ、外出行事への参加や病院受診等を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の区長さんの情報により地域の行事等への参加することにより、ご利用者が豊かに暮らせるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を取り入れ受診を行っている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医での受診ができるよう支援している。管理者が送迎や付き添いを行っているが、状況によっては家族に連絡して付き添ってもらっている。定期受診で家族が付き添った時の結果報告がない時等は、管理者は関わった看護師から情報を得ようとしている。管理者が付き添った時の報告は身体状況に応じて家族への連絡便りで報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職場内に看護職は配置がないが、介護職員の情報（気づき）をもとに、隣接の協力病院の看護職員と連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、それまでの経過やADL・QOL、BPSDについて情報提供を行い、退院時には入院中の状態等の聞き取りを行い、留意事項を確認を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期へ向けての支援については、現在検討中だがご家族の意向を踏まえ、医療的処置が無い限りは支援できるよう取り組む為に、ご家族・協力病院・包括支援センター・保険者と協議している。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針の説明を家族の希望も踏まえ、契約時の早い段階から説明している。家族からの問い合わせに、食事が口に運べるまでは事業所で支援する方針である事などを説明している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>協力病院の開催する研修会等へ参加し、連携を図るとともに実践力の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防避難訓練を実施し、協力病院や地域・家族会への協力依頼・連絡体制を築いている。</p>	<p>昼夜間想定の大災避難訓練を年2回実施している。消防団員に協力依頼をしており、リーダーに電話したら他の協力者の個人電話にも通報して貰える様になっている。日々の残りの御飯をおにぎりにして保存しているが、備蓄としては特に用意しておらず、水や食料・おむつなどを計画中である。</p>	<p>災害時に備えて、水や食糧、非常用品等の備蓄の準備を行う事が求められる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を尊重し、個々の誇りやプライドを損ねない様に、職員ミーティングで指導している。	職員の支援のあり方についてはその時その時で、気づいた時はその場で注意しあって、人格の尊重・プライバシーの確保に取り組んでいる。接遇部会でトイレでの対応の研修を行っている。隣接の笠利病院において、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の研修に全員が参加できるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自らの思いを職員へ伝えることが出来るよう、筆談など個々に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活サイクルは決めているが、個々のご利用者のサイクルに合わせ無理が無いように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自己決定を尊重しながら、ご家族の意向を聞き対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ等の準備を手伝って頂き、調理方法などについて相談を伺いながらメニューを考え、職員も同テーブルにて食事を行っている。	利用者の個々の力量に応じて玉葱の皮むきや煮干しの頭を取ったりする等、食事の下ごしらえを職員と一緒にやっている。家族や地域住民からの野菜の差し入れで、どんな料理が美味しいのか、差し入れの食材で何が食べたいのかを聞くなど利用者と一緒に献立を考えたりしている。外食も支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の観察を行い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎に口腔ケアを行っている。また、歯科受診時等に口腔ケアの方法についても指導を得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を行い、その方の排泄サイクルの観察を行うことで日中は綿の下着にて対応し、夜間についてもご利用者が自立して排泄が行えるよう、Pトイレ等個々に支援を行っている。	食前・食後や2時間おきにトイレ誘導している。日中、夜間共、対応方法をいろいろ変えて排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事中的食物繊維等にも留意し、水分量の観察を行っている。オリゴ糖の活用や日中の運動量も留意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	大まかな日程は決まっているが、ご利用者の希望や必要時にはいつでも入浴できるようにしている。入浴剤等を使い、季節感が楽しめるようにしている。	基本的に週2回入浴を楽しめるように支援している。便汚染時はシャワー浴で対応している。入浴拒否される利用者には職員や利用する曜日を変更する等の支援をしている。利用者の好みのシャンプーやボディソープを使用したり、入浴剤やゆず湯で色や香りを楽しみ、5月節句の時は菖蒲湯にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度の休息時間を保ちながらも、活動量を増やすことで、夜間良民できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理表を全職員が目目通せるよう配慮している。また、日頃の様子観察をもとに、主治医へ相談し薬の管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活動作に、洗濯物を干したり畳んだり、食事の下ごしらえ等を行うことで役割と楽しみが得られるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご自宅への外出・外泊等を行い、敷地内の病院への受診・散歩等を実施している。また、地域の行事等へも参加している。	日常的には事業所敷地内での散歩を行い、ベランダに出て外の景色を楽しんだりしている。遠出の外出は、月1回を目途に行っている。利用者が帰宅願望の時にドライブが楽しめる様支援している。遠出のドライブも楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向を伺い、ご家族の了承をもとに持って頂いています。また、買い物等の希望がある場合には、その都度対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の意向・希望に応じ対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、食堂より畑を眺め季節の作物を見ることで季節感を感じられるようにしている。	共用の空間は2台配置されているテーブルで利用者がゆっくり食事をしたり、利用者同士で会話を楽しんだり、ソファで休んだりする等、ゆったりした雰囲気時間が流れている。食堂に面した台所では調理する聞き慣れた音や食欲を促す匂いが流れ、自宅と同じ気分で居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・廊下・ベランダ・玄関にソファやベンチを設置し個々が思い思いの過ごし方が出来るよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や寝具・衣類を引続き利用することで、ご自宅での生活により近づけるよう配慮している。	利用者個々の居室には自宅で使い慣れている寝具類や衣装ケース等が持ち込まれており、利用者が居心地よく過ごせるよう配置されている。家族の写真や本人が気に入った馴染みの物なども飾られており、安心して過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	BPSDと捉えるのではなく、ご本人の「できる部分」・「わかること」と捉えられるよう職員ミーティングで共有・周知、出来るよう努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない